

## イメージによって使用される地域の特性を表す言葉が持つ特徴の分析 —愛知県を対象に—

縄田 朋未

地域の特性を表す言葉として「ベッドタウン」や「都市部」という言葉が使われている。これらには明確な基準がなく、人々のイメージによって使用されている言葉である。本研究では地域に関連するデータを用いてこのような言葉はどのような意味を持ち、どのような特徴を持つかを調査する。対象地域は愛知県とする。

アンケート調査と因子分析、クラスター分析を行う。愛知県の大学に通う大学生を対象としたアンケートで「都市部」「ベッドタウン」と思われている地域を調べる。国勢調査とLIFULL HOME'S データセットから夜間人口や昼間人口、外国人人口、産業別就業者人口、賃貸住宅の賃料、間取りを用いて因子分析を行う。

国勢調査と賃貸住宅データは形式が異なっているため、賃貸住宅の総数や賃料を地域ごとに集計する。最小二乗法とプロマックス回転を用いて因子分析を行い 3 つの共通因子を得た。1 つ目の因子は賃料が高い賃貸住宅数の影響が強いので「価値性」と名付けた。2 つ目の因子は人口や世帯数の影響が強いので「規模性」と名付けた。3 つ目の因子は賃貸住宅総数の影響が強いので「住居性」と名付けた。これより得られた 3 つの因子得点をもとにウォード法を用いて階層的クラスター分析を行った。アンケートの結果から、それぞれの言葉に対して 3 つの地域を言葉のイメージから連想される地域とした。「都市部」の名古屋市千種区・中村区・中区の 3 地域は類似度が非常に高いため、同一グループとして扱う。「ベッドタウン」の日進市・一宮市・長久手市の 3 つの地域は同一グループにするとすべての地域が 1 つのグループに含まれるほど類似度が低いため、2 つのグループに分ける。一宮市を含む 2 つの地域を「ベッドタウン A」と日進市、長久手市を含む 8 つの地域を「ベッドタウン B」とする。

「都市部」は住居性の因子得点が非常に高く、「ベッドタウン A」は高価値性と規模性の因子得点が高く、「ベッドタウン B」は因子得点が高い因子はないが、2LDK の賃貸住宅の数が多い。地理的背景を考察すると、「都市部」は名古屋駅付近の地域であり、昼夜間人口比率が 1.103 以上であり、1 世帯当たりの人数が少ない。「ベッドタウン A」は公共交通機関でのアクセスが良く、「ベッドタウン B」は名古屋市と隣接している地域が多い。

以上の考察から、「都市部」は賃貸住宅の総数が多く、名古屋駅付近の地域であり、昼夜間人口比率が 1.103 以上で、1 世帯当たりの人数が少なく、第 2 次産業就業割合が低い。「ベッドタウン」は規模の大小によって特徴が違い、大規模ベッドタウンは公共交通機関でのアクセスがよく、1K・2LDK が多く、人口・世帯数が多い。小規模ベッドタウンは 2LDK が多く、名古屋市と隣接している。また規模の大小に関わらず、昼夜間人口比率が 1.056 以下であり、1 世帯当たりの人数が多く、第 2 次産業就業者割合が多い。

(指導教員 長谷川秀彦)